

国際理解教育/開発教育 学習指導 (活動) 案

【実践者】

授業者氏名	中山 舞	学校名	広島市立二葉中学校
教科(科目)・領域	道徳・英語	対象学年(人数)	1学年(7クラス247名)
実践年月日もしくは期間(時数)	2020年11月下旬～12月(全7時間)		

【実施概要】

1. 単元名(活動名) : ～コロナウイルスから考える～私たちが生きる地球のためにできること						
2. 実践する教科・領域 : 道徳 (C: 社会参画、公共の精神) 英語 (疑問詞, 助動詞can, 長文読解)		3. 学習領域				
			1	2	3	4
		A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
		B グローバル社会	相互依存	情報化		
		C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
	D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加		
4. 単元の目標 (評価規準を意識して設定) : <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大がSDGsと関連していることを理解する。 ・SDGsについて理解し、その実現のために私たちにできることを考える。 ・日本と世界のつながりに気付き、世界に視野を広げ、英語を学ぶ理由を自ら考える。 						
5. 単元の 評価規準	①知識及び技能	・新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大がもたらす問題が、SDGsと関連していることに気付く。				
	②思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大について自分の思いや考えを述べたり、SDGsと自分たちの生活の中の問題や課題を関連付けて、自分にできることを考える。 ・自分達がSDGsのためにできることを英語で表現することができる。 				
	③学びに向かう力	・日本と世界のつながりに気付き、世界にも視野を広げることで、英語を学ぶ理由や英語を学ぶ意味を自分達で見つけようとしている。				

<p>6. 単元設定の理由・単元の意義</p> <p>(児童/生徒観、教材観、指導観)</p>	<p>【単元設定の理由あるいは単元の意義】</p> <p>新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の感染拡大に伴い、本校の生徒は約2か月半の休校を余儀なくされた。学校が再開して6か月が経過したが、未だに生徒達は感染予防のために、これまでの日常とは異なる生活を送っている。学校内でも、生徒間でコロナウイルスの話題になるとネガティブな意見ばかりが横行し、行き場のない怒りや悲しみを抱えているように感じている。</p> <p>本単元では、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に対する自分の思いや考えをクラス内で共有し、コロナウイルスに対して様々な意見があることを知る機会をつくる。同時に、世界に視点を向けると感染拡大により様々な問題が発生しており、それらの問題がSDGsと関連していることに生徒達に気付かせ、SDGs達成に向け自分たちにできる実践を考える機会をつくりたい。これらの活動を通じて、コロナウイルスに対するネガティブな気持ちを、「私たちが生きる地球をよりよい姿に変えていくための力」にできるよう支援したい。さらに、普段自分達が住んでいる社会から世界に視野を広げることにより、英語を学ぶ意味を自ら気付くことができるよう授業を行っていく。</p> <p>【児童/生徒観】</p> <p>本学校の生徒は、学習に対して苦手意識をもつ生徒が多く、自己肯定感が低い傾向がある。しかし、人の話に素直に耳を傾けることができ、SDGsについて話をした際にも、授業後に一つ一つのアイコンの意味を聞きにくる生徒もいるなど、授業やグループ活動などに積極的に取り組むことができる生徒も多い。</p> <p>また、授業前に行ったSDGsに関する実態調査から、SDGsという言葉を知っている生徒が1クラス35人中、平均5人と少なかったが、多くの子ども達が地球温暖化や新型コロナウイルスが地球規模の課題であるとの認識を示した。しかしながら、課題に対し「何かしたいと思うが、何ができるか分からない」と回答した生徒は35人中27人おり、授業を通じて課題について、自分の生活を見直し自分にできることを考えられるよう授業実践をしていく。</p> <p>【教材観・指導観】</p> <p>SDGsを知っている生徒も知らない生徒もグループで声掛け合って楽しくSDGsを理解するために、笑下村塾が作成したSDGsババ抜きを使って、SDGsを身近に考える機会を作る。また、DEARのワークシートを使用しながら同じ年齢・地域に住んでいても、人によって様々な捉え方や感じ方があることに気付かせ、自分だけでなく、他の人の気持ちを理解することを通じて、少しずつ視野を広く持たせ、コロナウイルスからの手紙が示す世界の諸問題について考え、地球に生きるものとして何ができるのかを考えるきっかけを与えたい。</p> <p>道徳では、登山家の筆者・野口健さんが、環境美化への使命感を持ち、連帯意識をもって清掃活動を実践した結果、多くの人が富士山の環境を意識し行動するようになるという内容を扱う。富士山の環境がよくなっていったという実話をもとにした教材をとおして、社会を構成していくのは自分たちであるという自覚をもたせ、よりよい社会を実現するためには、一人一人の意識を高め、地球規模の問題や課題に対して自分たちにできることは何か考えさせたい。</p>
---	--

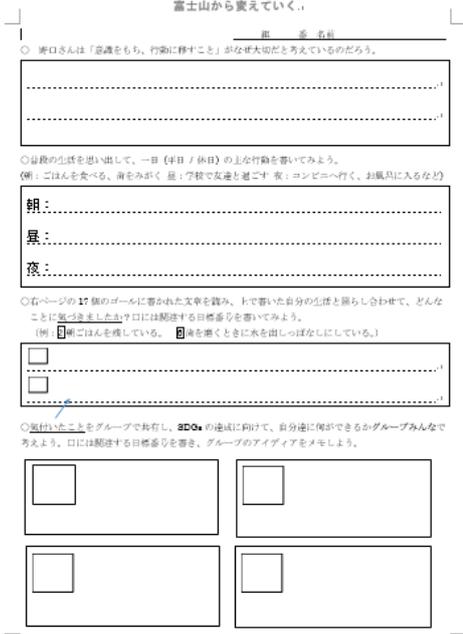
7. 単元計画 (全7時間) ※全体の総時間数や「本時」の記入場所は適宜変更してください。

時	ねらい	学習活動	資料など ※: JICA リソース活用はここに記載
1	<p>・SDGs について知る。</p> <p>(英語: 辞書指導)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2030年は自分は何をしているか、どんな世界になっているか考える。 ・政府広報オンライン「ソサエティ5.0 すぐその未来」を視聴する。 ・世界は進化する一方様々な問題も存在する。どのようなものがあるのか意見を挙げる。 ・国連広報センター「持続可能な開発目標: 誰も置き去りにしない」を視聴する。 ・SDGsのロゴマークとロゴが示す目標と説明文のカードをグループでマッチングさせて、それぞれの目標が何を示しているのか考える。グループで取り組み、分からない単語は辞書で調べて、意味を理解しながらカードを合わせる。 	<p>Youtube 「ソサエティ5.0 すぐその未来」 「持続可能な開発目標: 誰も置き去りにしない」 SDGs ロゴカード 資料1</p> 

<p>2</p> <p>・SDGsの具体的な中身について知る</p> <p>(英語：疑問詞(5W1H)の復習)</p>	<p>・SDGs17個のゴールに関する質問を英語で聞き取り、グループで答える。</p> <p>・SDGs ババ抜きカードゲームを通じてそれぞれの目標が自分の生活とどうつながっているのか、自分はどうかかわっていくことができるのか考える。</p> <p>・カードゲームをして感じたこと・初めて知ったことをグループのメンバーに伝える。</p>	<p>長岡技術科学大学 SDGs クエスチョン カード</p>  <p>Youtube「SDGsについて考えはじめた人々：吉本興業」 笑下村塾「SDGs ババ抜きカード」</p> 
<p>3</p> <p>・日本と世界のつながりについて考える。</p> <p>(英語：疑問詞(5W1H)の復習)</p>	<p>・DVDや資料を見ながら、自分達の暮らしと世界のつながりを知り、自分達の生活には世界の人々との関わりが欠かせないことに気が付く。</p> <p>また、どのようにそれらのモノが作られているのか、自分達の下に届くまでにどのような問題が起きているのか、SDGsと関連付けて考える。</p> <p>・「モノはどこからきているの？」カードゲームを英語で取り組む。</p>	<p>「世界はキミにつながっている」JICA映像</p> <p>「どうなってるの？世界と広島県～途上国とのつながりを学ぼう～」JICA</p> <p>「モノはどこからきているの？」カードゲーム JICA 東京</p>
<p>4</p> <p>・アフリカのアイシャちゃんの日を英語で読み、日本の子ども達との違いに気付く。</p> <p>(英語：長文読解)</p>	<p>・前時で、日本で使用されているモノや食べられているものは発展途上国で作られているものが多く、それらのものを子ども達がつけている国もあることを知る。</p> <p>・途上国では、貧しく働くために学校に行くことができない現状があることを知る。</p>	<p>「世界につながる教室授業で使える映像教材・PDF教材」JICA地球ひろば</p> <p>【映像1】途上国の教育課題(西アフリカにあるニジェールの場合)</p> <p>プリント 資料2</p>
<p>5</p> <p>・新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大をめぐる状況について、自分自身の考えや思いを他者と共有し、様々な思いがあることに気付く。</p> <p>・世界に視野を向けコロナウイルス感染拡大により様々な問題がSDGs</p>	<p>・DEAR教材「新型コロナウイルス感染症とわたしたち」のWorksheet①(一部日本語)に取り組む。 (新型コロナウイルス感染症に対して今の私の気持ちはどのような気持ちかを、ワークシートに書き、なぜそのように思ったのかをグループ内で話し合い、互いの気持ちを理解する。)</p> <p>・コロナウイルスからの手紙を読む。 世界ではどのような問題が起きているのか</p>	<p>DEAR「新型コロナウイルス感染症とわたしたち」</p> <p>コロナウイルスからの手紙(Vivienne R</p>

	と関連していることに気付く。 (英語：長文読解)	を知り、解決しなければいけない課題は新型コロナウイルスだけでなく、環境問題や貧困、差別、戦争、紛争問題、そしてそれらの問題に関心を向けてこなかった自分達の考えや行動であることに気が付く。	Reich) 資料3
6 本時	<ul style="list-style-type: none"> 「富士山を変えていく」を読むことから、一人の意識が変わり、行動をすることがやがて大きな力になっていくことに気付く。 SDGs 達成に向け自分達の生活の中を見直し、自分たちにできることをグループで考える。 (道徳C-12：社会参画、公共の精神) 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書「富士山から変えていく」を読む。 「意識をもち、行動に移すこと」がなぜ大切だと考えているか話し合う。 SDGs 達成に向けみんなが力をあわせ、変えられることはないか考えるために、まずは自分達の生活を見直してみる。 気付いたことをグループで共有し、どうすればよりよい世界にできるか、話し合ってアイデアを考える。 	「中学道徳 あすを生きる」 日本文教出版 資料4 ワークシート 資料5 パワーポイント 資料6
7	<ul style="list-style-type: none"> 道徳で考えた自分たちが考えた SDGs 第一歩宣言をもとに英語で新型コロナウイルスからの手紙に返事を書くことができる。 (英語：助動詞can) 	<ul style="list-style-type: none"> SDGs について自分達にできることを、新型コロナウイルスからの手紙に返答する形で英語で書く。(書いた手紙は、学年廊下に掲示する。) 	

8. 本時の展開 (概略) 本時のねらい：SDGs 達成に向け自分達の生活の中で、改善すべき課題について具体的に考え、一人の力でも自分から動き出すことの大切さを自覚し、その解決に向けて取り組もうとする。			
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (10分)	「ここは日本のある場所です。どこでしょう？」  「富士山について知っていることを教えてください。」 <ul style="list-style-type: none"> ・きれい ・日本一の山 ・世界遺産 ・ゴミが多い 【補足情報として伝える】 「富士山が世界遺産ということは知っていると思いますが、世界遺産は文化遺産と自然遺産に分けられます。原爆ドームは文化遺産かな？自然遺産かな？厳島神社は？屋久島は？富士山は？実は富士山は自然遺産ではなく、文化遺産なのです。富	いろいろな角度から撮影された写真を3枚提示し、富士山の写真は答えとして提示する。	教科書「中学道徳 あすを生きる」日本文教出版 2013年にユネスコの世界文化遺産に登録されましたが、富士山の世界遺産登録までにはゴミの不法投棄が多かったことや山小屋のし尿処理など環境保全が大きな問題で「自然」遺産での登録を断念した経過がありました。」

<p>展開 1 (15分)</p>	<p>士山は、日本に根付いた文化として文化遺産になりました。」</p> <p>「野口健さんを知っていますか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登山家（アルピニスト） ・世界最高峰のエベレスト登頂 ・富士山の清掃活動を行っている <p>「今日は、今英語の時間に学習している SDGs に取り組んでいる野口健さんの手記である“富士山から変えていく”を読みましょう。」 (P110～P112 まで読む。)</p> <p>「野口さんはごみだらけのエベレストを目の当たりにしたときに、最初のごみを拾うつもりではなかったのはなぜだろう。」(P111, L10)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エベレストに登りたかったから。 ・自分が捨てたゴミではないから。 <p>「いつもなら負けじと言い返すのだが、このときばかりは言葉が出なかった。とありますが、なぜ言葉が出なかったんだろう。」(P112, L15)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人はゴミを捨てないと思っていたけれど、ゴミをたくさん捨ててたから。 ・自分の知らないことがあったから。 <p>「続きを読みましょう。」(P113～P115)</p> <p>「問① 野口さんは「意識をもち、行動に移すこと」がなぜ大切だと考えているのだろう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめは一人でもひとりがみんな行動すれば大きな力になる。 ・みんなで結集することで非常に大きな力になるから。 ・自分達の力で現状を変えていくことが大切だから。 	<p>資料 5 ワークシート左</p>  <p>富士山から変えていく。</p> <p>野口さんは「意識をもち、行動に移すこと」がなぜ大切だと考えているのだろう。</p> <p>最後の生徒を思い出して、一日(平日/休日)の主な行動を書いてみよう。 (例: ご飯を食べる、歯をみがく、昼: 学校で友達と遊ぶ、夜: コンビニへ行く、お風呂に入るなど)</p> <p>朝: _____ 昼: _____ 夜: _____</p> <p>右ページの 17 個のゴールに書かれた文章を読み、上で書いた自分の生徒と照らし合わせて、どんなことに気づき、また土曜日は野口には関連する目標を書き、グループのアイデアをメモしよう。 (例: 朝ごはんを食べている、水を飲むときに水を出しっぱなしにしている。)</p> <p>各行のゴールをグループで共有し、SDGs の達成に向けて、自分達に何が出来るかグループみんなで考えよう。口には関連する目標を書き、グループのアイデアをメモしよう。</p>	<p>自分本位な考え方で行動するのではなく、他者の気持ちになって考えたり、他者の意見を聞いたり、知らないことを知ろうとすることで現状が変えられるようになることを自覚させる。</p>
-----------------------	--	--	--

<p>展開 2 (15分)</p> <p>まとめ (10分)</p>	<p>【補足情報として伝える】</p> <p>「野口さんの取り組みは SDGs のどの目標と関連していましたか？その後清掃活動だけでなく、ネパールの子どものために学校をつくるプロジェクトや日本固有の動植物を守るための活動を行ったりしています。」</p> <p>「日常には、様々な問題があるけれど、なかなか意識してその問題について考えて行動する機会がないと思います。今英語の時間に勉強しているSDGs もみんなが関心をもって取り組まないといけない問題がたくさんありますね。」</p> <p>今日はSDGs 達成に向けみんなが力をあわせ、変えられることはないか考えましょう。まずは自分達の生活を見直してみよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水を出しっぱなしにして歯を磨いている。 ・買い物でビニール袋を使っている。 <p>「気付いたことをグループで共有し、自分達にできることを話し合っってアイデアを考えてみましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯を磨くときに水を止める。 ・プラスチック製の袋を断り、エコバックをもっていく。 ・SDGs について学んだことを家の人に伝える。 <p>「自分達が考えた今日からできることを発表してください。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯を磨くときに水を止める。 ・プラスチック製の袋を断り、エコバックをもっていく。 ・SDGs について学んだことを家の人に伝える。 	<p>野口さんはSDGs 達成に向けた様々な活動をしていることに気が付かせる。</p> <p>生徒がイメージしやすいように、最初に教師が考えた見本を示し、ワークシートに取り組みやすくする。</p> <p>今日考えたこと、知ったことを詳しく調べたり、学んだことを人に伝えることもよりよい世界に変えていくための第一歩であると自覚させる。</p>	 <p>資料5 ワークシート右</p> 
<p>9. 評価規準に基づく本時の評価 (評価方法)</p> <p>SDGs 達成に向け自分達の生活や言動を振り返り、改善すべき課題について具体的に考え、一人の力でも自分から動き出すことの大切さを自覚し、その解決に向けて取り組もうとしている。 (グループでの発言・ワークシートへの記入)</p>			
<p>10. 学習方法および外部との連携</p> <p>普段から、異なる意見から自分の考えを深められるようグループワークに取り組んでいる。</p> <p>また、アンケートをした際に、SDGs を知っている生徒が少なかったことから、最初のSDGs の導入部分を、楽しく興味をもたせるために、JICA 中国の方々からワークショップの教材を紹介して頂いたものを実施し、体験的な学びの深まりを目指した。</p>			

11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み

本授業を学年全体で取り組むことで、学年の先生方へも開発教育を広めていく。今回の研究授業を校内の先生方にも周知し、先生方にも自由に参観して頂きたいと考えている。また、学校HPでも取り組みを発信し、地域や保護者の方々にも、開発教育の取り組みを広げていきたい。

【自己評価】

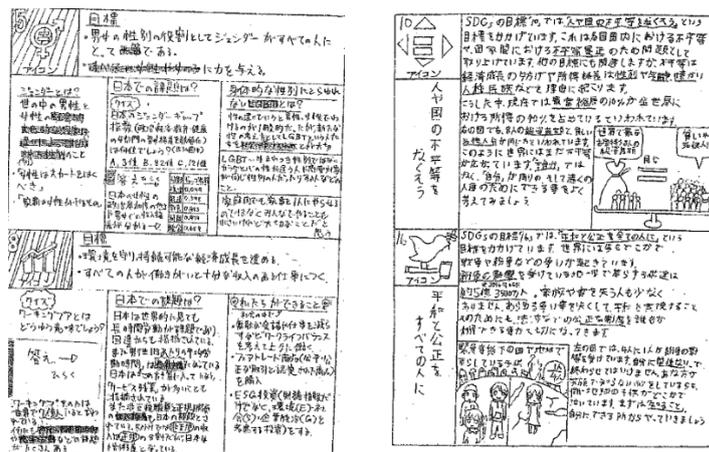
12. 苦勞した点	<p>※学習活動が展開する中での苦勞や、そこで見えてきた問題点を記入して下さい。</p> <p>道徳の授業の中で「教科書」を読み「SDGsのために自分に出来ることは何か」について考えたが、1時間の道徳の授業の中では考えきれなかった生徒がいた。今回は身近な自分の生活を振り返り、SDGsに向け自分の行動をどう変えることができるかについて考えたが、「食べ物を残さない」「水を出しっぱなしにしない」「電気をこまめに消す」という考えが多く、それ以外でのアイデアが出づらかった。17のゴールについての理解が、十分ではない生徒が多かったのではないかと考える。</p>
13. 改善点	<p>※実践を再度実施することや、他の学校で追試する場合のことを想定して、改善点を示して下さい。</p> <p>本時では、教師の側から伝える内容もたくさんあったので、1時間で収めようとせず、もう少し、時間をかけて子ども達にじっくり考える時間をつくってあげたらよかったと思う。今年は総合を行えない状況にあり、英語の授業と道徳の授業内でSDGsについて考える授業を展開したが、来年度はカリキュラムマネジメントを見直し、総合の探求の内容や各教科の授業単元にSDGsと関連することがないか事前に先生方と確認をしながら行っていきたい。</p>
14. 成果が出た点	<p>本単元後に行ったSDGsに関する実態調査から、「SDGsという言葉を知っている」と答えた生徒は全7クラスとも35人中30人以上おり、「世界規模の課題に対し自分にできることを何かしたいと思う」と回答した生徒は全7クラスともに授業前に行ったアンケートから大幅に増えていた。日常の中で「SDGsのロゴを見た」や「SDGsの目標が達成されていない」などの声も聞くようになり、授業の中だけでなく、生活の中でSDGsを身近に感じる機会が増えたのではないかと考える。また、生徒だけでなく同僚の先生方ともSDGsについて話をすることが増え、来年度授業に取り入れていきたいと伝えてくれる先生方がおり、一緒に様々な教科の先生も利用できる汎用性の高い教材を作りたいと話している。</p>
15. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	<p>※この単元における学習者の変容が読み取れることを意識して下さい。記入者が文章記述を通して「このように変容した」と教師の言葉でその見取りを書くことも可能ですが、できる限り学習者本人の言葉や作品で示していただくことにより、具体性、説得性の高いものになります。</p> <p><u>「SDGsの達成に向けて自分達に何ができるか」に対する生徒の記述</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1,2番：食品を無駄にしないよう、計画的に料理して食品ロスをしない。 ・2番：食べないお菓子を買わない。(消費期限が短く、捨ててしまうことになる) ・2番：ご飯を残さないようにする。バイキングでは必要なものだけとる。 ・4番：授業中寝ないようにする。 ・6番：シャワーの流しっぱなしをやめる。

- ・7番：無駄な電機は消す。使わないときはコンセントを抜く。
 - ：風呂がさめないうちに、家族全員入る。
 - ：寒いときは厚着をするなど、暖房の使い過ぎに気を付ける。
- ・12番：ゴミ、例えばペットボトルなどを分別して捨てる。
 - ：繰り返し洗えるマスクを使う。
- ・14番：ビニール袋をもらわず、マイバックを持って行く。
 - ：ゴミを捨てないようにする。

「本時の授業の感想」生徒の記述

- ・私は今日の授業で、日頃の生活から直すことができることが分かったので、意識から行動に移して小さなことからやっていきたいです。塵も積もれば山となる。
- ・自分の生活の中でも地球環境などによくないことがあり、それを意識してSDGsを達成しようと行動に移すことができると分かりました。
- ・授業を受けてわかったことは、「少しずつでも取り組んでいけば大きくなるということです。」一人ひとりが意識しするかしないかで大きく変わるということをこの文章を読んで改めて分かりました。私も小さなことから少しずつ取り組んでいきたいです。
- ・少しでも身近にあるゴミを拾うだけでSDGsの助けになるということは、日本中の人がゴミをひろえば、それだけの量のゴミが減らせるということだと思う。SDGs達成につながる行動を行ってきたい。
- ・自分はいろんなことを意識して行動に移せているつもりだったけど、自分の生活を振り返るとできてないことがたくさんあったので、少しずつ変えていきたいと思う。

☆生徒がSDGsについてまとめたノート（一部）



その後、「私のSDGsコンテスト」に挑戦する生徒もおり、生徒同士の会話の中心にSDGsがあることも度々あった。

16. 授業者による自由記述

「新型コロナウイルス×SDGs」
 ・今回私が上記の単元設定を行ったきっかけとなったのは、生徒の口からコロナウイルスに対するネガティブな言葉が往来していたからである。しかしながら、生徒達にこのような時だからこそ、私たちが生きる地球について改めて考えて、マイナスをプラス

の方向に考えていく機会だと思い、コロナウイルスについて授業で扱うことにした。

「コロナウイルスからの手紙を読んで授業の感想」(生徒の記述)

- ・もっと世界に目をむけてこの機会に世界のことを考えてみんなで乗りこえたい。
- ・コロナ前の自分達はどれだけ世界中が苦しんでいても何も考えなかったけど、コロナが来て改めて、地球について考えていかなければいけないと思った。
- ・自分に関係ないことでも、そのまま放っておけばいずれ、全世界の大問題になってしまう。誰かのために何かをすることで世界が救われるかもしれないと思った。
- ・もっと環境や動物のことについても考えなければいけない。今までの生活が幸せな人もいるし、貧しい人もいてコロナがでてもっと苦しい生活の人もいると思う。今までの生活が全世界にとって必要か考えて自分だけじゃなく身のまわりの人のことも考えて行動していきたい。貧しい人たちがたくさんいることを忘れないで、自分にできることなら何でも協力していきたいと思った。
- ・自分のことばかり考えるのではなく、地球に悪影響を与えていないか、自分の行動をもう一度見直すことが大切だと思った。
- ・自分達が地球上の問題を引き起こしているから自分達(人間)が責任を持って解決しなければならない。自分達が地球上で快適に暮らすためには地球に感謝して地球に恩返しをしなければならない。
- ・コロナウイルスは中国で発生したけれど、今までの自分達の生活も関係しているかもしれない。だから地球のことを考え、自分達の行動を変えていかなければならないと思う。
- ・この期間を有効に活用して、何が地球に優しいのか考えることが必要だと思った。

「英語×SDGs」

・単元設定のもう一つの理由として、SDGsを学習することにより、普段子ども達が暮らす社会から世界とのつながりを考えることにより、一人ひとりが英語を学ぶ意味を少しずつ考えられるような機会にしたいと思ったからである。

「単元を通じて授業の感想(英語を学習することに関する記述抜粋)」(生徒の記述)

- ・SDGsを学んで他の国々と自分達がつながるために英語を学んでいると思った。
- ・SDGsを学んで世界の人々を助けるためには、英語を使うと一緒に話をするができる。
- ・英語を通して世界の人と繋がれたり、世界の状況を知ることができる。
- ・世界は助け合いが必要で、もし自分が別の国へボランティアなどに行くかもしれないからその時のために英語を学んでおくことが大切だと思う。
- ・英語を少しでも話せたら、世界の人と考えなどが共有できると思った。
- ・英語は世界をもっとより良くしたり、人と人が繋がるために必要なものだと思う。
- ・食べ物を分ける時に話せた方がいいと思ったから英語を学ぶことは大切だと思う。
- ・英語を通じてSDGsの意味や世界の問題が分かったから学ぶことは大切だと思う。

参考資料：

※単元を構想、実施する上での教師のための参考資料、学習者のための参考資料、ウェブサイト、データリソースなどを紹介してください。

- ・「中学道徳あすを生きる」教師用指導書 日本文教出版
- ・DEAAR 開発教育協会 <http://www.dear.or.jp/> (2020-09-12)
- ・文化庁「日本の世界遺産一覧」 <https://www.bunka.go.jp/> (2020-09-12)
- ・野口健公式ウェブサイト <http://www.noguchi-ken.com/> (2020-11-08)
- ・横浜銀行 CONCORDIA <https://www.concordia-fg.jp/csr/> (2020-11-16)
- ・長岡技術科学大学 <https://www.nagaokaut.ac.jp/annai/daigakusyokai/sdgs/index.html> (2020-11-18)
- ・JICA 地球ひろば 持続可能な開発目標(SDGs)を学べる教材
- ・コロナウイルスから人類へあてた手紙 by Vivienne Rodriguez Reich
- ・「生きる力」を育む 国際理解教育実践資料集 JICA 地球ひろば
- ・共につくる 私たちの未来 SDGs から「持続可能な社会の創り手」への一步を JICA 地球ひろば
- ・「SDGs×Gakken」. 2019年11月発行
- ・「FRAU SDGs ハローニッポン! 日本から始まるSDGs。」2020年8月発行

富士山から変えていく

組 番 名前

- 野口さんは「意識をもち、行動に移すこと」がなぜ大切だと考えているのだろう。

- 普段の生活を思い出して、一日（平日 / 休日）の主な行動を書いてみよう。

（朝：ごはんを食べる、歯をみがく 昼：学校で友達と過ごす 夜：コンビニへ行く、お風呂に入るなど）

朝：

昼：

夜：

- 右ページの 17 個のゴールに書かれた文章を読み、上で書いた自分の生活と照らし合わせて、どんなことに気づきましたか？ □には関連する目標番号を書いてみよう。

（例：2朝ごはんを残している。 6歯を磨くときに水を出しっぱなしにしている。）

- 気付いたことをグループで共有し、SDGsの達成に向けて、自分達に何ができるかグループみんなで考えよう。□には関連する目標番号を書き、グループのアイデアをメモしよう。

17のゴールから世界の現状を知ろう!

	世界人口の10人に1人が1日1ドル90セントという国際貧困ライン未満で暮らしている。
	全世界で約8億人、世界人口で見ると9人に1人が栄養不足におちいっている。
	現在も毎年500万人以上の子どもが5歳の誕生日になる前に命を落としている。
	世界では読み書きができない5歳以上の子どもが約7億人もいて、その3分の2が女の子だ。
	世界には女性のパートナーが働くことを禁止できる国が18カ国ある。
	世界人口の10人に3人が、安全に管理された飲料水を利用することができない状況にある。
	世界では12億をこえる人々が電気を使えない暮らしをしている。
	日本では「働きすぎ」が問題になる一方で、途上国では「働くことができない」ことが問題となっている。
	多くの途上国では道路や電力、水道といった基礎インフラが整備されていない。
	世界の富裕層の子どもに比べ、途上国の子どもは5歳未満で死亡する確率が3倍も高い。
	2030年までに世界の都市人口は現在の35億人から50億人に達するといわれている。人が増えると生活環境や公衆衛生にも大きな影響が出る。
	世界では大量のエネルギーを消費し、資源を使って、多くの食品を生産する一方で、毎日大量の食品が廃棄されている。
	地球の平均気温が1度上がるごとに穀物の収穫量は約5%ずつ減少してしまう。
	世界中の海の中にはマイクロプラスチックが大量に浮遊していて生態系をこわしている。
	干ばつと砂漠化によって、東京都の55倍にあたる1,200万ヘクタールの土地が毎年失われている。これは1年で2,000万トンの穀物が栽培できる面積だ。
	途上国では組織的犯罪も多く、窃盗や脱税は年間1兆2,600億ドルにもおよぶ。
	すべての人たちが国や地域、国内、地方などで、得意分野を活かして協力することで17個の目標達成を目指している。

未来のために
どんな行動が
できるかな？



- 記号を選んで、言葉に続くように今日の授業の感想を書きましょう。
- A 私が今日の授業で分かったこと・分かり直したことは…
- B 私が今日他の人の意見を聞いて分かったこと・分かり直したことは…
- C 私が今日の授業を受けてこれから頑張りたいこと・気をつけたいことは…
